

令和4年駐屯地成人行事



駐屯地司令との記念植樹



成人者代表の謝辞



陽融会会長からの記念品贈呈



部隊最先任との記念撮影



部隊長との記念撮影



陽融会会長との記念植樹



記念撮影

駐屯地は、令和4年1月13日、令和4年駐屯地成人行事を実施しました。

成人式では、陽融会会長（坂下弘親氏）から記念品を贈呈され、その後、駐屯地司令（坂元将補）、陽融会会長、各部隊長と記念撮影及び植樹を行いました。

成人式において、駐屯地司令の式辞及び陽融会会長の祝辞を受けた成人者58名は、駐屯地所属隊員及び御来賓に対し、成人者としての抱負を力強く発表しました。

成人代表の第3施設大隊本部管理中隊石丸士長は、「これから自律し、立派な社会人、そして自衛官となれるよう努力して参ります引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。」と謝辞を述べ、決意を新たにしました。



発行：大久保自衛隊協力会
陽融会
大久保駐屯地桃友会
45会
編集：第4施設団本部
第1科広報班
印刷：進見堂印刷

駐屯地司令要望事項

即応と信頼

紙面紹介

- 1 面
 - ・令和4年駐屯地成人行事
 - ・家族支援に係る協定締結
 - ・国連三角パートナースhip・プロジェクト（UNTPP）
 - ・転出部隊長等紹介

- 2 面
 - ・各部隊訓練等記事

- 3 面
 - ・各部隊訓練等記事

- 4 面
 - ・部隊長随筆
 - ・最先任の一言
 - ・第4施設団戦技競技会
 - ・定年退官者紹介
 - ・Twitter 8000フォロワー突破
 - ・編集後記

家族支援に係る協定締結

京都府所在の陸自各駐屯地、京都府自衛隊家族会及び京都府隊友会は「隊員家族の支援に対する協力に関する協定書」を締結しました。



記念撮影



調印式

各種事態発生の際、出動する部隊・隊員が後顧の憂いなく活動できるよう、京都府内に所在する隊員家族について面会から安否確認等の支援を受ける施策で、令和4年4月から施行されます。

令和3年12月の奈良県における同趣旨の協定締結に引き続き、京都府においても本施策を推進したことで、家族支援基盤を充実し、駐屯地として引き続き、地域の皆様の期待と信頼に応えるべく、即応態勢の充実に励んで参ります。

国連三角パートナースhip・プロジェクト（UNTPP）

国連三角パートナースhip・プロジェクト（UNTPP）教官団は、昨年、事前訓練を実施して派遣準備を万全にし、令和4年1月、ケニアに向け、大久保駐屯地を出発しました。



教育風景



教育風景

ケニア到着後は、現地での調整や訓練場の整備等、教育開始準備を実施し、教育開始後は、教官団の一人一人が被教育者に対して熱心に教育を行い、知識、技術の向上に全力を尽くしました。

約1万1千km離れた地において環境が変わる中、教官団一同が体調管理を徹底しながら任務を達成し、無事帰国しました。

転出部隊長等紹介



富岡 3佐



青木 3佐



伊藤 1佐



宿久 1佐



お世話になりました。



転出者見送り

令和4年3月、臨時駐屯地朝礼において、転出者紹介及び見送りを実施しました。

大久保駐屯地業務隊長（宿久1佐）、第4施設団本部高級幕僚（伊藤1佐）、第397会計隊長（青木3佐）、第104施設直接支援大隊長の隊員は、駐屯地所在部隊の隊員たちに見守られながら、それぞれの新しい任地へと転出されました。

新天地での活躍を応援しています。

各 部 隊 訓 練 等 記 事



保健指導



共済セミナー



92式浮橋への車両の通行



軽門橋による車両の運航



記念撮影



共済業務



来場者による渡河ポート体験



来場者による92式浮橋の通行

第 7 施 設 群

第7施設群は、令和4年1月下旬、奈良県吉野郡十津川村において「令和3年度方面施設科合同訓練」を担任・実施し、災害派遣時における渡河作業について、施設科技術・能力の向上を図りました。

訓練は熊野川の河川敷で実施され、時折強風が吹くとともに、最低気温が氷点下となる環境の中、隊員は川の中に入って裾を濡らしつつも、寒さを吹き飛ばすほどの威勢の良い掛け声をかけながら、熱心に訓練に励み、一人の発熱者も出さず、熱心に訓練を終了することができました。

本訓練は、中方管内の10コ施設科部隊、少数精鋭の隊員を参加させ、参加隊員相互に切磋琢磨し、施設科技術・能力の向上を図るもので、紀伊半島大水害から10年の節目を迎えた十津川村で実施しました。訓練の最後には、訓練の一般公開を行い、首長協力団体及び地域の方々をお招きして、100名ほどの方々にご来場いただきました。

来場いただいた方々の中には、大水害を経験された方もおられ、感謝のお言葉を直接お声掛けいただくことがあり、諸先輩方が行った災害派遣活動のご功績を感じた機会となりました。

大久保駐屯地業務隊

防衛省共済組合大久保支部は、令和4年2月上旬、令和3年度防衛省共済組合本部長表彰を受賞しました。

大久保支部は、共済事業の理解促進のため、定期的な官舎地区での説明会や支部独自の広報小冊子を作成し配布しております。また、貯金ATM室内にセンサー付き広報機器を設置し利用者に向けて共済事業の制度広報や各種イベント等の広報を実施しました。

これらの功績が認められ、3年連続となる本部長表彰を受賞することができましたが、改めまして駐屯地の組合員の皆様、これまで御指導御協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。

今後も支部長の統率方針である「部隊・隊員の為に」とも、組合員及びご家族の福利厚生の実現のため、更なるサービス向上に取り組み、努力して参る所存であります。

今後とも共済事業へのご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



タイヤ交換要領の実技教育



エンジン分解結合の実技教育



命令下達



口頭諮問



エンジンオイルの点検実施



タイヤの空気圧調整



有線構成



隊容検査

第 3 施 設 大 隊

第3施設大隊は、令和4年1月下旬から2月上旬までの間、信太山演習場において第4次大隊訓練検閲を実施しました。

全般的には天候に恵まれるも、放射冷却現象の影響で朝方には氷点下近い気温となる中において、受閲部隊である通信・連営の任務を遂行しました。

検閲間、状況が目まぐるしく変化する中でも、通信・大隊の隊員は、それぞれの状況に迅速かつ適切に対応して、大隊の任務遂行に必要な通信の確保に努めました。

特に、本検閲においては、まだ経験の浅い若年隊員も多く参加しており、慣れない通信の構成や、周囲が見えづらい夜間での作業に苦戦していましたが、分隊長等による適切な指揮の下、冷静沈着に作業を実施して与えられた任務を迅速かつ確実に実施していました。

また、同時期に本部管理中隊による野外炊事や掩体構築を実施して、その練度向上を図ることができました。

今後も、施設大隊は、あらゆる気象条件を克服し、状況に応じた各種活動を実施できるよう、練成を積み上げていきます。

第 104 施 設 直 接 支 援 大 隊

第104施設直接支援大隊整備隊は、令和4年1月から3月の約3ヶ月間、大久保駐屯地において、令和3年度陸士特技課程「施設機械整備」教育を実施しました。

基幹要員4名の隊員は、中方管内に展開する各野整備部隊及び補給処の陸士隊員に対して施設機械整備手として、必要な知識・技術を修得させるとともに、当該特技に必要な資質を養いました。16名が施設機械整備手としての自覚と誇りをもって勉学に励み、修得した知識をもとに練度向上に努めました。また、学生同士が切磋琢磨する姿は他の隊員の刺激となりました。

初心を想い返す教育となりました。

教育間、学生一人一人が真剣に教育に臨み、施設機械整備手としての知識・技術を修得して、異状なく教育を終了しました。

各学生が教育で修得した知識と技術を活かし、同期の絆を大切に原隊においても更なる飛躍を期待しています。

整備隊は引き続き、第一線部隊に対する兵站支援を完遂できるよう人材育成に努め、整備技術の練度向上を図り、隊員一丸となり前進していきます。

第 3 0 7 ダンプ車両中隊



One チームで臨む隊員 (射撃)



限界突破で激走する隊員(分隊走)

第307ダンプ車両中隊は、令和4年2月下旬、長池演習場において、令和3年度団戦競技会が実施され、中隊の精鋭たちが代表として参加、射撃総合、分隊走総合及び分隊走個人走中隊対抗の部において優勝しました。また、射撃個人の部において梅本3曹が第2位、加瀬澤3曹が第6位、藤本士長が第7位に入賞し、女性自衛官の部においては、森糸士長が第1位、廣澤士長が第2位、山元(美)3曹が第3位の荣誉に輝き、見事団長から表彰されました。中隊の代表として出場した精鋭たちは日頃の練成成果を遺憾なく発揮し、強豪たちがひしめくそれぞれの部門において好成績を残しました。中隊の全隊員は今回の競技会を通じて自信と誇りを高めることができ、部隊の団結を強化することができました。隊員は、来年度も強豪を迎え撃つべく、継続的な練成と更なる飛躍を目指すことを誓いました。

第 1 0 2 施設器材隊



レーキによる敷き均し



既存アスファルト除去

第102施設器材隊は、令和4年1月中旬から三重県に所在する明野駐屯地において、平成17年から行っている明野飛行場アスファルト舗装整備を実施しました。明野飛行場の傷んだ滑走路に対し、特殊器材中隊19名をもって約3000㎡のアスファルト舗装を実施して飛行場機能の維持・向上に寄与しました。また、令和4年1月下旬から大久保駐屯地においても特殊器材中隊17名をもってアスファルト舗装補修を実施しました。大久保駐屯地の警衛所前における既存アスファルトの除去、路盤の修正及びアスファルト舗装約38.5㎡を実施し、駐屯地基盤の維持・向上に寄与しました。両工事とも、コロナ禍での実施となりましたが、参加者全員が任務に真摯に取り組むとともに、感染症対策に留意しつつ、体調管理及び安全管理を徹底し、無事に整備を終えました。

第 4 施設 団本部付隊



電報の送受信



アンテナ建柱

第4施設団本部付隊は、令和4年1月上旬から令和3年度陸士特技課程「初級部隊無線電信・初級部隊暗号」教育を担当しました。団本部通信班長河川1尉が教官となり、櫻井2曹、川尻2曹、荒井3曹、宮前3曹、高柳3曹の助教員で教育を開始しました。部隊無線電信(17名)、部隊暗号(6名)の計23名が教育に参加し、必要な知識及び技能の習得に励みました。担任官の団本部付隊長は、要望事項として、「仲間と心を一つにして同じ目的に向かって、何事も一生懸命取り組み、通信のプロを目指して頑張ってもらいたい。」と教育参加者を激励しました。新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、体調不良者等を出さなく、日々真剣に教育に向き合う結果、全員が無事に修了試験に合格しました。教育修了者のそれぞれの部隊での活躍が期待されます。

第 3 9 7 会 計 隊



準備物品の確認



運用教育

第397会計隊では、令和4年2月中旬に南海トラフ地震対処訓練として、会計隊長による運用教育及び初動対処準備訓練を実施しました。運用教育では、会計隊の隊員に対して方面会計隊の運用構想及び災害発生時等における自主登庁の重要性を再徹底しました。また、初動対処準備訓練においては、指揮所の開設、準備物品の内容確認、資材の車両積載等を実施しました。この際、災害時の緊急調達要求に対応できるよう、ハザードマップに最新の経済地誌資料を記載するなどの整備を実施しました。大規模震災においては全隊員が呼集できるとは限りませんが、少ない人員でも任務を継続するため、何時でも誰でも実施できるように初動対処準備訓練及び会計実務能力の練度向上を図り、更なる即応態勢の万全に期します。

第 3 1 8 基地通信中隊大久保派遣隊



端子盤の点検・接続



システム設定

第318基地通信中隊大久保派遣隊は、中部方面隊で実施されたシステム通信訓練に参加しました。システム訓練の構成や設定をはじめ、システム運営要領について日頃の訓練や業務で養った能力を発揮して任務を達成しました。また、駐屯地における職任一体化のための施設再割当ての通信支援を行いました。この通信支援については日頃の各訓練や部隊としての練成訓練で養った力を実業務として発揮し、駐屯地ユニーザーへの良質・安定した通信回線の提供を目標に通信支援を行い、業務システム及び基地内線電話の開設及び設定を迅速・確実に実施できました。派遣隊は、基地システム通信基盤が24時間当たり前に使用できる通信環境を維持し、駐屯地所在部隊の作戦進展に伴うシステム通信所要の増加に適切に対応し、訓練から恒常業務における使用部隊、使用者の皆様への影響を極限にするため部隊の基本的行動、隊員の基礎動作を演練し精進して参ります。

第 3 後 方 支 援 連 隊 第 1 整備 大 隊 施設 整備



天幕の偽装



命令下達

第3後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊は、令和4年1月中旬、整備大隊の是正訓練に参加しました。これは昨年11月に受けた連隊検閲からの練度向上を目的としたものです。本訓練では検閲時と同じ青野ヶ原演習場で各級指揮官の命令下達から車両に対するタイヤチェーンの装着・遮光・個人の偽装を実施し、小隊長は先行班として出発し、展開地の安全化、主力の誘導要領を演練しました。主力の進入後は隊長以下、隊の指揮所、師団施設整備所等を構築し敵意を識した遮光・偽装に留意することにより検閲時と比較し、更なる練度向上が図れました。また施設器材の整備訓練では、被支援部隊の所在する地域まで整備員を派遣するという設定で、派遣された組長が被支援部隊と故障器材に関する調整をしながら組員を指揮して整備訓練をしました。各整備員からは被支援部隊の任務達成のため最大限努力する姿勢が感じられ、また、本訓練により休養気分を払拭して新たな年のスタートを切りました。

部隊長随筆



第7施設群長 1等陸佐 千葉 武志

「決意」

平素から第7施設群に対して格別なご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

令和3年12月22日付けで第25代第7施設群長を拝命いたしました千葉1佐です。

先日、初めての部隊訓練として、実際の河川を使用した渡河訓練を奈良県十津川村で実施しました。

十津川村は、平成23年の紀伊半島南部大水害で被災し、当時、第7施設群が主力で災害派遣を行った地域です。

このため、訓練を行っている際に住民の方から「10年前に、自衛隊さんに助けてもらいました。その節はありがとうございました。」と涙ながらに声をかけていただきました。

その眼には当時の辛く悲しい記憶の中に、身を賭して活動し、被災者に手を差し伸べている隊員の姿が映っているように感じました。

着任後のこの経験から、これまでの諸先輩方の功績に敬意を払うとともに、私も指揮官として部隊の先頭に立って、統率方針「即動必遂」を具現すべく隊員と共に日々の錬成訓練に励み、地域の方々に安心・安全を提供していくことを改めて決意したところです。

今後とも、よろしくお願いいたします。

最先任の一言



第318基地通信中隊 大久保派遣隊 先任上級曹長 2等陸曹 田中 良門

「敬礼」

平素から基地通信隊に対し、格別なる御厚情及び御協力を賜り心から感謝申し上げます。

また、若輩者がこのような場を与えてもらえることに感謝いたします。

私のよく利用する道路沿いの小学校の校舎に「挨拶は、誰より早く元気よく！」という垂幕があります。

それを見るたびに自衛隊では「敬礼は、誰より早く元気よく！」につながるものと感じております。

敬礼が部隊や駐屯地の精強度を表すものであれば「誰よりも早く」見ようというつながり、「元気よく！」敵（受令者）を圧倒することに繋がります。

したがって、我々も、日頃から自分等の持ち場を一步出たら敵（受令者）を意識して行動し、発見次第敵を圧倒するという気持ちをもって行動すべきであると思えます。

また、受令者についても圧倒され捕獲されることなく気持ちよく答礼できるよう心掛けたいと思います。

軍隊や警察、消防、海保等が敬礼を行います。共通点は、自分の命に代えても人々の生命や安全を守る人達です。我々も国土と国民を守るものとして誇りを持って敬礼しましょう。

第4施設団戦技競技会

令和4年2月下旬、長池演習場において令和3年度第4施設団戦技競技会を実施しました。本競技会は、分隊走（射撃を含む不整地の走破）、射撃の2種類を行い、隊員一人一人が日々の錬成成果を發揮し、部隊の名譽をかけて競い合いました。手に汗を握る接戦の結果、第6施設群が分隊走「群対抗の部」優勝、第307ダンプ車両中隊が分隊走「中隊対抗の部」総合優勝、個人走「中隊対抗の部」優勝、射撃「中隊対抗の部」総合優勝、第4施設団本部付隊が分隊走「中隊対抗の部」において優勝に輝きました。コロナ禍を吹き飛ばす戦いが随所で繰り広げられ、盛会のうちに競技会は終了しました。



定年退官者紹介

| 部隊名 | 階級 氏名 | 退官日 |
|----------------|-------------|-----------|
| 大久保駐屯地業務隊 補給科 | 2等陸尉 三ツ井 徹 | 令和4年1月7日 |
| 第397会計隊 | 准陸尉 種村 定男 | 令和4年1月18日 |
| 第102施設器材隊 本部付隊 | 准陸尉 高橋 洋志 | 令和4年1月27日 |
| 大久保駐屯地業務隊 補給科 | 1等陸尉 青野 泰二郎 | 令和4年2月12日 |
| 第3施設大隊 本部管理中隊 | 陸曹長 鈴木 研志 | 令和4年3月27日 |



永年の勤務 お疲れ様でした!

Twitter突破 8000フォロワー突破

一昨年4月22日に大久保駐屯地公式Twitterを開設し、部隊の活動状況、日常の訓練風景、隊員の様子等を配信して参りました。2年を待たずに8,000名のフォロワーの皆様への応援を受けることができ、自衛隊及び大久保駐屯地に対する関心の深さを直接感じることができました。

そしていよいよ大台の10000フォロワーも視野にはいつてきました。

大台達成に向け、引き続き、大久保駐屯地一丸となり皆様の期待に応えられるよう、努力するとともに普段見ることのできない自衛隊を配信する等、Twitterの充実を図っていきます。

今後とも大久保駐屯地公式Twitterを宜しくお願いいたします。



大久保駐屯地 Twitter QRコード

編集後記

大久保駐屯地広報紙「やましろ」ご愛読の皆様、いつもありがとうございます。ようやく春を迎え、過ごしやすいく候になってきました。昨年は、主要な行事が中止、規模縮小の影響で、皆様とお会いできませんでした。今年には是非、お会いできることを心から願っております。最後になりますが、引き続き、大久保駐屯地広報紙「やましろ」に対する温かいご支援・ご協力を宜しくお願い致します。